

令和6年度 第2回 渋川市市政モニターアンケート結果

渋川市は、市民の皆様から市政等に関する意見や要望をお聞きし、各種施策の推進や計画立案の参考とさせていただくことを目的に市政モニターアンケートを実施しました。

令和6年度 第2回 アンケートの集計結果は次のとおりです。

- 【調査対象】 令和6年度市政モニター44人（公募10人・団体推薦34人）
＜モニターの要件＞
- ・市内に住所を有する18歳以上の人
 - ・公務員や地方公共団体の議員などでない人
 - ・同一世帯に市政モニターに応募しようとする者がいない人
- 【実施期間】 令和6年9月2日（月）～9月20日（金）
- 【実施方法】 アンケートフォームによる（一部、書面（郵送）調査）
- 【実施内容】
1. 新市誕生20周年について（問1～問3）
 2. 市の広聴事業について（問4～問6）
 3. プラスチックの分別収集について（問7～問11）
- 【回答状況】 アンケート調査回答者：37人（20歳代～80歳代）
回答率：84.1%

参考

＜アンケート回答者の情報＞

- （1）居住地 渋川地区（13人）、伊香保地区（6人）、小野上地区（2人）、子持地区（6人）、赤城地区（5人）、北橘地区（5人）
- （2）年 齢 20歳代（4人）、30歳代（8人）、40歳代（5人）、50歳代（2人）、60歳代（8人）、70歳代（7人）、80歳代（3人）

渋川市

（広報室）

令和6年度 第2回
渋川市市政モニターアンケート結果

1. 新市誕生 20 周年について

現在の渋川市は、2006（平成18）年2月20日に、渋川市、伊香保町、小野上村、子持村、赤城村、北橋村が新設合併をして誕生しました。そして、次年度中の2026（令和8）年2月には、新市誕生20周年を迎えます。

市は、市政20周年という節目を、市民の皆さんや市内事業者など、関わる全ての皆さんと心をひとつにして祝うとともに、本市が積み重ねてきた歴史や、先人たちの功績を振り返り、また、豊かで美しい自然や豊富な観光資源を見つめ直すことで、「渋川市」への誇りと愛着をさらに深める機会としたいと考えています。

また、この節目を形式的な行事ではなく、市民の皆さんをはじめ、本市に関わるさまざまな方々と本市の未来を展望し、渋川市が未来に向けて歩みを進める契機としたいと考えています。

問1 合併後（平成18年2月）以降の市政を振り返り、印象に残っている出来事や事業などを教えてください。

<簡易抜粋>

- ・街中の住所が一律に渋川市渋川になってしまったことは、今でもわかりにくいと感じます
- ・合併後人口が減っていること、消滅可能自治体として指摘されたこと
- ・自分が生まれ育った子持村という言葉がなくなったこと
- ・他の自治体との交流が増えてきている実感がある
- ・自校給食がなくなり、給食センターになったのは残念です。渋川市としての文化祭は意義のあるものだと思います
- ・小中学校のIT化の進展（大型テレビ、パソコン・タブレットの導入）、教育環境の整備（エアコンの設置、水洗トイレの設置）、伊香保：石段の延長、ハワイアンフェスティバルの充実
- ・共生社会に向けての活動
- ・医療的ケア児など、障害福祉に関する先進的な事業
- ・合併後赤城町の赤城の名前が残ったことは感謝です
- ・旧渋川市から市長が出ないこと。市が伊香保温泉の観光PRに力を入れてきたこと
- ・毎年行われているスポーツ祭の開会式などは、合併後の規模は大きくなったと感じています
- ・群馬県所有の観山荘を購入し伊香保温泉の石段を延伸拡張したことで景観が良くなり誘客に繋がった
- ・日本の真ん中まんじゅうフェスティバル。元々ディスティネーションキャンペーンの一環として行われたフェスが地域密着に繋がったのが良い印象です

問2 20周年記念事業としてあったらいいなと思うものを全て選んでください。

- ①プレイベント（令和7年2月までに機運醸成のために行う行事）の開催
（5人・13.5%）
- ②セレモニー・祝賀式典の開催（8人・21.6%）
- ③キャッチコピーの作成（7人・18.9%）
- ④ロゴマークの作成（7人・18.9%）
- ⑤記念誌の発行（9人・24.3%）
- ⑥記念動画の作成（10人・27.0%）
- ⑦記念イベントの開催（9人・24.3%）
- ⑧記念グッズの作成（5人・13.5%）
- ⑨記念名札や記念名刺のテンプレートの公開（4人・10.8%）
- ⑩記念スポーツ大会の開催（7人・18.9%）
- ⑪海外の姉妹都市などとの交流事業の開催（10人・27.0%）
- ⑫記念写真や記念動画のコンテストの開催（2人・5.4%）
- ⑬記念音楽祭の開催（5人・13.5%）
- ⑭市内小・中学校での記念行事の開催（6人・16.2%）
- ⑮記念展示会の開催（2人・5.4%）
- ⑯記念ポスター（市外に掲載）の作成（4人・10.8%）
- ⑰現在ある事業を「市政20周年記念〇〇」（冠事業）として実施（15人・40.5%）
- ⑱記念事業は不要（4人・10.8%）
- ⑲その他（4人・10.8%）

＜その他意見＞

- ・道路等の補修を記念事業として広範囲にするとか未来に残り住民が実感できる事業
- ・20周年を迎えて渋川市への誘致、移住に効果のあるイベントの実施
- ・旧町村の特色を生かした旧町村単位の行事の開催。地域の力の再現

年齢別回答状況

単位：人

〇は人数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	合計
20歳代(4)	1		1			2				2	2	1	2		1		3		15
30歳代(8)		2		1	1	1	2			1	1			1		1	3	2	16
40歳代(5)	1		1	2	1	2	1	1			1		1	1			2		14
50歳代(2)	1		1				1				1								4
60歳代(8)	1	2	3	3	1	2	2	2	2	1	1	1	1	1		1	4	3	32
70歳代(7)	1	2		1	4	3	2	2	2	2	3		1	2		1	3	1	30
80歳代(3)		2	1		2		1			1	1			1	1	1		1	12
合計(37)	5	8	7	7	9	10	9	5	4	7	10	2	5	6	2	4	15	4	4

※複数選択可でありながら、得票率が1番多い「⑰現在ある事業を冠事業として実施」は全世代からの選択があるものではない。唯一「⑪海外の姉妹都市などとの交流事業の開催」は全世代から選択されている

問3 上記「問2」で選択したものの具体案や選択の理由を教えてください。

<簡易抜粋>

- ・セレモニーやイベントは参加者が限られるわりに費用・労力がかかり、費用対効果を考慮し開催すべきでない。(イベント等を開催するのであれば中途半端なモノではなく、日本中から注目されるような魅力的なモノ)
- ・市の条例やルール等で発行が定められているのであれば仕方ないが記念誌は大きな節目(50年・100年等)の発行でも良いのでは？
- ・極力予算がかからなそうなものを選択しました
- ・20周年という節目の年ではありますが、特に記念事業は不要と考えます。平成の合併で渋川市に合併された地域に住む方と元々の渋川市に住む方では、感じ方も違うと思います。すべての事業において、メリットとデメリットが存在します。事業としては不要と思いますが、何もしないのではなく、よりよい渋川市にするための取り組みは必要と思います
- ・記念事業をするなら一過性の行事をしても意味はないと思います。記念事業をするには当然予算が必要です、道路等の補修を記念事業として広範囲にするとか未来に残り住民が実感できる事業をしてはいかがでしょうか
- ・姉妹都市にも祝していただくことで距離感が縮まり、今後につながると考えたため
- ・お祭りや行事があると、記憶に残りやすく人の交流も増えると思う
- ・セレモニーや展示会は内々のものになりがちなので、対外的に市をアピールできるものがないと思った。市民がグッズをSNS等で発信できるような仕掛けがあるとなお良い
- ・町全体が盛り上がる内容としての記念式典や、この町に住む方々との歴史の振り返り、ここに住む未来の姿勢を担う子供たちが積極的にかかわれる内容の式典やイベント。これに対しては子供たちの意見を取り入れ実施までの流れが作れるともっと面白いと思う。また、今までこの街を作ってきた上の世代の方々との交流の場を作るのもよいかと思います
- ・それぞれの市町村のPR動画を撮ってもらった後、全ての市町村で今は協力し合ってこんなことをしているという動画を見てみたい
- ・大きな予算を使用する「モノ」の制作や「コト」の開催は、20周年という節目ではあるがあまり賛成とは言えない。渋川に住んでいる方々にまずは「そうだったんだ」という「認知」してもらうことが必要ではないか。ロゴマークは、様々なモノ・コトに使用できるため、認知をしてもらうことを目的とする上で必要かと思う
- ・記念事業の必要性を感じない。20周年を市民に周知できればよい。既存の事業を20周年記念とすれば十分
- ・前からある事業に冠が着くのが、1番認知されると思うから。
- ・記念誌は、発行に多大な時間を要する割に、手元に来たときは見るがその後はしまわれてしまう可能性が高い
- ・記念誌はたくさんの人に読まれるし、資料として残るため

2. 市の広聴事業について（渋川まちかどトーク）

市は、対話と参加によるまちづくりを進めるため、広聴事業を実施しています。主な事業には、市政に関する建設的な意見や要望などを、市民の皆さんから広く募集するために市有施設に設置する「市長への投書箱」や、アンケート形式で市の政策などに関する市民意見を聴く手段とする「渋川市市政モニター」、希望団体と市の関係者が市政やまちづくりなどのテーマについて意見交換を行う「渋川まちかどトーク」があります。

この他にも、市ホームページのお問い合わせ機能を活用して市政に対する意見を受け付けるなど、市民ニーズや意見・提案などを把握し、市と市民などとの協働によるまちづくりを推進したいと考えています。

なお、これらのうち、渋川まちかどトークは、参加希望団体（市民等5人以上の集まり）を随時募集する方式で実施することとしていますが、これまでに、開催実績はありません。

問4 「渋川まちかどトーク」事業を知っていましたか。

①知っていた（5人・13.9%）

②知らなかった（31人・86.1%）

※未回答（1人）

年齢別回答状況				単位：人
①は人数	①	②	未回答	合計
20 歳代(4)		4		4
30 歳代(8)	1	7		8
40 歳代(5)		5		5
50 歳代(2)		2		2
60 歳代(8)	2	6		8
70 歳代(7)	1	6		7
80 歳代(3)	1	1	1	3
合計(37)	5	31	1	

※どの年代も「②知らなかった」の回答が多く、世代問わず認知度が低い。「①知っていた」と回答した人は、比較的年齢が上の人であり、若い世代への周知の検討が必要と言える

問5 「渋川まちかどトーク」事業の実施方式（希望団体との対話方式による意見聴取）への意見を教えてください。「市長への投書箱」や「渋川市市政モニター」など、個人の意見を聴く制度の他に、「渋川まちかどトーク」のような団体から意見を聴く制度の必要性和合わせてお考えください。

①公募による実施のままでよい（希望団体がいなければ実施しなくてよい）
（12人・32.4%）

②団体を指名した方がよい（旧事業の方式）（6人・16.2%）

③個人が意見を言える場があるので「渋川まちかどトーク」は無くてもよい
（4人・10.8%）

④わからない（12人・32.4%）

⑤その他（3人・8.1%）

＜その他意見＞

- ・①+②を希望、公募となるとなかなか応募がしにくい点は否めないが希望があれば意見を聞いてもらえるという開かれた場は重要に思います。ただ、現実的には意見がないから応募しないわけではなく場や時間があれば伝えたいことや意見は出てくるはず。なので、行政から声をかけていくことも私は必要に感じます。私も団体をもっていますが、残念ながらこのような取り組みを知りませんでした
- ・団体から意見を聴くとあるが、本当に特定の個人の意見に対して安全が配慮されるのか疑問がある
- ・団体として対話することも、団体の思いや希望、課題等を行政が理解する上で重要であろう。ただし指名ではなく、あくまでも希望の方がより積極的な意見が出るのではないかと考える
- ・旧町村単位の開催

年齢別回答状況 単位：人

○は人数	①	②	③	④	⑤	合計
20歳代(4)		1	1	2		4
30歳代(8)	3	1		3	1	8
40歳代(5)	1	1		3		5
50歳代(2)	1				1	2
60歳代(8)	6		1	1		8
70歳代(7)		2	2	3		7
80歳代(3)	1	1			1	3
合計(37)	12	6	4	12	3	

※「③個人が意見を言える場があるので「渋川まちかどトーク」は無くてもよい」が、一部の世代で選択されていないのに対し、「①公募による実施のままでよい」・「②団体を指名した方がよい」という事業の継続を選択する人が全ての世代にいることがわかる

問6 上記「問5」で①～③、または「⑤その他」と回答した方は、回答の理由を教えてください。

<簡易抜粋>

■①と回答した方（12人）

- ・無作為にモニターを選んでも、市民全員が市の事を考えているわけではないと思います。ですので、市に意見や希望等がある人と対話した方がきちんとモニタリング出来ると思います
- ・公募のままでよいが周知されていない。団体や学生に趣旨がわかるように情報提供をする

■②と回答した方（6人）

- ・団体も様々な団体があり、利益や自分たちの都合のいいように働きかける団体もあると思うので、よく内容を精査していくべきだとも思う
- ・時勢に合った団体を公正に選び、市の活性化に繋げてほしい

■③と回答した方（4人）

- ・個人が意見を述べることのできる市長への投書箱、ラインで通報できるシステムが構築されているので
- ・開催実績がないということは、関心がないともとれます。具体案が浮かばないのですが、申込を待つだけではない何か方法があればよいのですが……。市長への投書箱も敷居が高い気がします。こちらの実績はどの程度なのでしょう？

■⑤と回答した方（3人）

- ・団体から意見を聴くとあるが、本当に特定の個人の意見に対して安全が配慮されるのか疑問がある
- ・出前「渋川まちかどトーク」の旧町村別の開催。要望は聞くだけでなく、実現させる。説明責任を果たす

3. プラスチックの分別収集について

市は、プラスチックの資源循環に取り組むため、令和6年4月からプラスチックの分別収集を開始しました。現在、プラスチック専用の指定ごみ袋を使用して、月2回の指定日に集積所へ排出されたものを分別収集しています。

事前に行った分別収集の試験結果から、1年間の分別収集量を約630トン（1カ月当たりの平均は52.5トン）と推計していましたが、4月分が16.6トン、5月分が28.6トンと推計値よりも収集量が少ない状況です。

環境省が実施した一般廃棄物処理事業実態調査（令和4年度実績）において、渋川市の1人1日当たりのごみ排出量とリサイクル率は、県内12市の中で、いずれも下から2番目の数値となっていることから、今後は、分別収集の開始後に顕在化した課題を踏まえ、事業の周知・理解の促進に努め、市民の皆さんなどの協力のもと、より多くのプラスチックのリサイクルの推進を図ります。

問7 プラスチックの分別収集は何のために必要だと思いますか。該当するものを全て選んでください。

- ①燃やすごみの量が減るため（20人・54.1%）
- ②資源の有効活用となるため（29人・78.4%）
- ③二酸化炭素の排出量の削減に繋がるため（10人・27.0%）
- ④分別することでごみ減量の意識が高まるため（12人・32.4%）
- ⑤子どもの環境教育に役立つため（12人・32.4%）
- ⑥わからない（0人）
- ⑦分別収集は必要だと思わない（4人・10.8%）
- ⑧その他（1人・2.7%）

<その他意見>

- ・そもそも収集量だけ確認できて、結果どれくらいの量が年間リサイクルされているのか分からない

年齢別回答状況									単位:人
①は人数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	合計
20歳代(4)	1	1					2		4
30歳代(8)	1	4	1				1	1	8
40歳代(5)	3	5	1	1	1				11
50歳代(2)		2							2
60歳代(8)	6	7	2	1	1		1		18
70歳代(7)	7	7	3	2	2				21
80歳代(3)	2	3	3	1	1				10
合計(37)	20	29	10	5	5	0	4	1	

※複数選択可でありながら「②資源の有効活用となるため」の回答のみ、全世代から選択されている

問 8 市のプラスチックの分別収集の回数（月 2 回）についての意見を教えてください。

- ①少ない（回数を増やした方がよい）と思う（12 人・32.4%）
- ②ちょうど良いと思う（21 人・56.8%）
- ③多い（回数を減らした方がよい）と思う（0 人）
- ④わからない（4 人・10.8%）

年齢別回答状況					単位: 人
()は人数	①	②	③	④	合計
20 歳代(4)	3			1	4
30 歳代(8)	4	3		1	8
40 歳代(5)	1	3		1	5
50 歳代(2)		1		1	2
60 歳代(8)	2	6			8
70 歳代(7)	2	5			7
80 歳代(3)		3			3
合計(37)	12	21	0	4	

※30 歳代以下の回答で、「①少ないと思う」と回答した人の割合が多く、20 歳代では、「②ちょうど良いと思う」と回答した人はいなかった

問 9 プラスチックの分別収集に取り組んでいますか。

- ①市のプラスチック専用の指定ごみ袋を利用して取り組んでいる
(29 人・78.4%)
- ②スーパーなどの分別収集スペースを活用して取り組んでいる
(2 人・5.4%)
- ③分別収集を知っていたが取り組んでいない（6 人・16.2%）
- ④プラスチックを分別収集していることを知らなかった（0 人）

年齢別回答状況					単位: 人
()は人数	①	②	③	④	合計
20 歳代(4)	1		3		4
30 歳代(8)	5		3		8
40 歳代(5)	4	1			5
50 歳代(2)	1	1			2
60 歳代(8)	8				8
70 歳代(7)	7				7
80 歳代(3)	3				3
合計(37)	29	2	6	0	

※「①市のプラスチック専用の指定ごみ袋を利用して取り組んでいる」と回答した 29 人のうち、問 8 で分別収集に関する設問の回答は、「②ちょうど良いと思う」と回答した人が 18 人、「①少ないと思う」と回答した人が 9 人、「④わからない」と回答した人が 2 人の内訳になる

問 10 上記「問 9」で回答した内容に合わせて下記に回答してください。

■①と回答した方（29 人）

指定ごみ袋を利用した分別収集に取り組んだ感想などを記入してください

＜簡易抜粋＞

（1）収集の方法への意見

- ・自治会へ出向いて説明してもらいました。よかったと思います。しかし、出席者は極一部の人ですから周知することはまだまだ努力が必要です

（2）指定袋のサイズへの意見

- ・一人暮らしの人は 35 リットルでも大きいのかなと思います
- ・小、中、大、特大とあるとさらに良いと思う

（3）分別収集を継続する上での課題など

- ・「プラスチックの分別」への啓発活動や周知不足 → 地域住民の「プラスチックの分別」意識の低さ
- ・分別して効果があるのに指定袋の購入を強いるのは変な気がします。分別して効果があるなら無料にすることも必要と思います
- ・プラゴミの区分け、プラマークがないもの、汚れているものは燃えるゴミにということなので、確かに面倒になります。今までと同じにしている人は多いと思います
- ・イベントなどでは細かく分別されている気がしない（特に祭りなど行事で感じた）
- ・頻度が増えれば、必然的に収集率は上がってくると思う。「溜めておかなければならない」「溜めておくと匂いが、自宅のどこにおいておく」問題が出てくれば、「燃えるゴミで出してしまえばいいや」となってくると思う
- ・汚れている容器の扱いで、どの程度まできれいにすれば良いのかよくわからない。あまり清潔にしてくだすのでは、水資源の無駄とも考えられる
- ・もっと近隣に上記が可能な大手スーパーを誘致して欲しい。渋川の中心部にいかないといけないのは不便

■②と回答した方（2 人）

市の指定ごみ袋を利用した分別収集を行わない理由を教えてください

＜簡易抜粋＞

- ・分別するために家にゴミ箱が増える。プラ容器は汚れていることが多いので、きれいにすることが手間

■③と回答した方（6 人）

分別収集に取り組んでいない理由を教えてください。

＜簡易抜粋＞

- ・共働きや家にいる時間も短く、そこまで手が回らない
- ・面倒なので他のものと捨ててしまいます

問 11 より多くの人にプラスチックの分別収集に取り組んでもらうために必要だと思うことは何ですか。また、事業周知などのアイデアがあれば教えてください。

<簡易抜粋>

- ・「ビニール網」を被せるだけの時代遅れで不衛生な「ゴミ置き場」ではなく、他の自治体が当たり前のよう設置している金網やスチールや木製の「ゴミステーション」化を推進することで、住民の分別意識向上とマナー向上を図る
- ・「生ごみは入っていません袋」のように「きたないプラごみは入っていません袋」を配布する
- ・市内の小中学校にて分別方法等を周知する
- ・市は今回のプラごみ回収開始にかかった費用を広報誌や HP にてわかりやすく公表すべきではないでしょうか。大切な市税や交付税を使っているわけですから、業者への委託金額やプラごみ回収に関わる予算は開示されて然るべきだと思っています。一般会計からどのくらいプラごみ回収に使い、どれほどの効果が出ているか市民にはっきりと示すことが理解を得る第一歩ではないでしょうか
- ・集めたプラゴミがその後どのように活かされているのか、燃えるゴミと分けることでどんなよいことがあるのかをわかりやすく可視化して情報提供していただけるといいように感じます。特に、そのメリットとして私たちの生活や税金、身近な何かに置き換えてどう反映してるのかまで落とし込んでいただくと老若男女自分ごととして理解できるのではないのでしょうか
- ・集めたプラスチックゴミで渋川市オリジナルのなにかをつくる、例ボールペン集めたプラスチックでボールペンに変身など
- ・腐るゴミではないので、たまった時点で集荷場におけるといいですね
- ・プラスチックを何回か分別して出したら、資源活用で生まれたものをプレゼントするという制度があったら分別する人は増えると思います
- ・丁寧な周知徹底。しつこいくらいに案内をした方がよい
- ・指定場所に捨てに来てもらい、ポイントを一定量溜めれば「渋ペイ」になる等、「継続するとお得」という仕組みを作ると収集率はあがると思う
- ・PR 不足と思う。折にふれ伝える
- ・袋だけでなく、回収ボックスも設置されれば、収集量は増えると思う
- ・分別収集を何故するのか。分別収集をすることで何が変わるのか。を周知して欲しい。ポスターを児童に書いてもらう。(小・中・高・特殊学校) コンクールにて展示、賞を考える
- ・地域通貨を利用してゴミ袋を購入した際は追加でポイント付与、地域通貨アプリと連携した広告やメールマガジン等でゴミの分別を促進する、等ゴミの分別を行うことで得をするという認知があれば自ずと広がるのではないだろうか